

郷土を知る
むかしむかし

昔々の そお市

開

第77回



なかばる
中原の十五夜行事

生涯学習課 文化財・市史編纂室 ☎ 0986-76-8873

中

原地区では、毎年9月15日に十五夜行事が行われています。

昔は夕方になると、法螺貝を吹いて十五夜の始まりを知らせ、子ども・大人・夫婦による相撲や、道路上での綱引きの実施など大いに盛りあがったそうです。また当日の昼は、引く綱を大人と子どもが一緒になって、大きな掛け声とともに編み込んでいました。ところが少子高齢化や藁不足などの影響もあり、現在は出来なくなっています。

しかし今でも「龍頭」とよばれる藁で出来た竜の頭を作り、彦野神社に奉納しています。現在は、龍の胴部に該当する綱引きの綱は作りませんが、頭部は毎年作っています。

十五夜が近づくと、彦野会のメンバーが集まり龍頭を作ります。龍頭は三日月状になった縄飾りを十字に組んだもので、顔に該当する部分は約80cm、角に該当する部分は約170cm（令和6年実測）あります。藁を水に濡らし、ワラウツゴロ（木槌）で叩き柔らかくして、縄を約40分で完成します。その後、彦野神社鳥居前の4本の竹の上に龍頭を配し、クリ・ハギ・ススキを備え付けます。

地区の安泰・無病息災・子ども達の健康を祈願して祀られた龍頭は、十五夜終了後、2～3日で撤去されます。見学期間が短いのでご注意ください。

なお彦野神社は、子どもの神様を祀ると言われています。他方、江戸時代は徳川家康の百年忌の法要を行い「権現さあ」と崇敬されていたそうです。

また中原地区では、毎年4月23日に供養祭と呼ばれる家畜の供養祭を行います。地区の端に9つの塚（牛馬の墓）があり、これらを清掃し清め、お参りをしています。同日、お札を入れた竹筒を地区の四方（東西南北・北は写真参照）に設置します。これは疫病などの災いが地区内に入ってくるのを防ぐ結界の役割を担っており、現在も地区単位でこのような風習が残っているのは珍しいです。このように中原地区は、伝統行事を大事に守り伝える貴重な地区の一つといえます。

【アクセス】



彦野神社近くの北の結界
（右側の土手の上）



龍頭と彦野神社



龍頭作り